

「JENESYS2.0」

アジア国際子ども映画祭 2017 参加訪日団

訪問日程 平成 29 年 11 月 21 日（火）～11 月 29 日（水）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣したアジア国際子ども映画祭 2017 参加訪日団計 10 名（引率：王瀾（オウ・ラン）北京師範大学附属実験中学 教諭）が 11 月 21 日から 11 月 29 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は北海道北見市で開催された第 11 回アジア国際子ども映画祭及び関連プログラムに参加しました。映画祭では、中国高校生による出品作品の 1 つが外務大臣賞を受賞しました。また、東京都における学校交流を通じて日本の高校生との友好交流と相互理解を深め、日本の社会や文化、自然、環境、先端技術に関する視察を通じて、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程**11 月 21 日（火）**

羽田国際空港より入国、パナソニックセンター見学、オリエンテーション

11 月 22 日（水）

杉並アニメーションミュージアム視察、東京国立近代美術館フィルムセンター視察、北海道へ移動

11 月 23 日（木）

北見市表敬・ウェルカムセレモニー・映画祭作品視聴会、北見ハッカ記念館見学、山の水族館見学

11 月 24 日（金）

カーリング体験、オホーツク流氷館見学、交流会

11 月 25 日（土）

市民交流会（オホーツク国際ふれあい広場）、アジア国際子ども映画祭本選大会、アフターパーティー

11 月 26 日（日）

阿寒湖見学（マリモ展示観察センター見学）、ボッケ自然探勝路散策、アイヌコタン見学、和風温泉旅館で日本文化体験

11 月 27 日（月）

東京へ移動、浅草見学、商業施設視察

11 月 28 日（火）

下北沢成徳高等学校訪問・交流、報告会、歓送会

11 月 29 日（水）

羽田空港より帰国

3 写真



11月21日 パナソニックセンター見学（東京都）



11月22日 杉並アニメーションミュージアム視察（東京都）



11月22日 東京国立近代美術館フィルムセンター視察（東京都）



11月23日 北見市表敬・ウェルカムセレモニー（北海道）



11月23日 映画祭作品視聴会（北海道）



11月23日 北見ハッカ記念館見学（北海道）



11月23日 山の水族館見学（北海道）



11月24日 カーリング体験（北海道）



11月24日 オホーツク流水館見学（北海道）



11月24日 交流会（北海道）



11月25日 アジア国際子ども映画祭本選大会
（北海道）



11月25日 アジア国際子ども映画祭本選大会
（北海道）



11月25日 市民交流会オホーツク国際ふれあい広場（北海道）



11月25日 アフターパーティー（北海道）



11月26日 阿寒湖見学（北海道）



11月26日 ポッケ自然探勝路散策（北海道）



11月28日 下北沢成徳高等学校訪問・交流（東京都）



11月28日 下北沢成徳高等学校訪問・交流（東京都）



11月27日 浅草見学（東京都）



11月28日 報告会（東京都）

4 参加者の感想（抜粋）

○ 最も印象深かったのは、日本人の心のこもったもてなしの気持ちだ。それはサービス業に従事する人だけが持っているわけではなく、国民の心に深く根ざした精神である。彼らは自分たちができる限り、最良の方法で人を助けようとするのを、私ははっきり感じる事ができたし、その精神はまわりの人々にもしっかり影響を及ぼしていると思った。私は東京で二度、道に迷った。通りがかりの人に道を聞くと、彼らはまるで当たり前のように私を目的地まで連れて行ってくれた。まるで何もわからない土地にいるのに、人の温かさがくれるパワーを感じることができた。国の違いも、言葉の違いも、民族の違いも関係ない。こうした心のこもった人への接し方は、なかなかできるものではない。ある特撮映画のセリフを思い出した。「真心を無くしてはいけない。弱者の立場で物事を考え、助け合えば、どこの国の人でも友だちになれる。友だちとの間で、誤解やすれ違いが生じることもあるが、すべてたいしたことではない」。

帰国したら、まわりに日本人の心のこもったもてなしについて、伝えたい。文化交流はこれからも相互理解の基礎であり続ける。

○ 今回の訪問で、印象深かったことが二つある。一つ目は、日本の都市計画についてだ。交流活動を行う過程で、小さなことでは引率の先生2人がスケジュールの1分1秒までも、とても正確に把握していたこと、大きなことでは訪問した北見市、網走市、そして東京の街がとてつもなく膨大な前期計画に支えられており、日本人のこうした計画性が、自分、そして他人の暮らしをも便利にしていることだ。

映画祭の交流で、私が得た最大の収穫はこの2文字、「真実」だ。どの作品も非常にリアルにその国々の現状を反映しており、社会の変遷、さらに現在の青少年の気持ちを表現していた。このように「真実」を反映することは、中国ではあまり見られない。私たちはこのよ

うな「真実」を中国の生徒たちにも見せたいと望んでいる。これこそが、明るい未来に向かう道だ！

「真実」は、中日青少年交流にとっても欠かすことのできないものだ。互いの信頼がすべての基礎である！

○ 今回の日本訪問について、まず日本側にこの機会を与えてくれたことを感謝したい。日本でのいろいろなことが素晴らしい思い出となり、深く印象に残っている。

最も印象的だったのは、東京のよく考えられた街の景観と交通計画だ。縦横に走る鉄道と秋空に映える紅葉も、とても美しい風景を作り上げていた。また、都市の中心部を、新宿、渋谷、浅草など、いくつかの異なる地点に分けていることにも感心した。

日本人が伝統的な習慣や考え方を持ち続けていることも印象に残っている。たとえば、縦書きで文字を書くことや、茶道、伝統衣装などだ。グローバル化を進めるなかで、このような考え方が、その国が独自の魅力を維持し続けることを可能にしている。

また、日本の小中学校が、子供たちの総合的な成長や、芸術や体育の力を伸ばすことを重視していることに驚いた。北見市を訪れたとき、現地の小中学校の管弦楽団と合唱団がとても面白いパフォーマンスを披露してくれた。

まとめると、今回の活動ではとても貴重な経験ができ、素晴らしい思い出をつくることができた。

○ この活動に参加する前から、日本人の親切なところに好感を持っていた。しかし、参加してみて、改めて、もてなしてくれた人それぞれの心のこもった対応や、人々のオープンで寛容なところ、真面目な仕事態度などを見ることができた。日本の青少年の生き生きとした姿も強く印象に残っている。

映画を通して、アジア各地の若者による異なる文化の表現を見て、深い感動を覚えた。映画撮影に関する違った考え方をたくさん見ることができたし、同世代のほかの国の青少年の考え方もよくわかった。

日本での交流を通じて、日本では伝統文化の青少年への継承や教育が上手く行われており、彼らは生き生きとした若者らしさを残しつつも、日本の「静」の伝統を受け継いでいると思った。心を落ち着け、研鑽を積んで自分を磨き続ける。これは中国の若者に足りない部分だと思う。

○ 今回の交流を通じて、国によってテーマの捉え方が違うということがわかった。異なる物語の中に文化の違いを見ることができ、日本やアジアの国々への認識が深まった。学校訪問では、日本と中国の学校の違いを知ることができ、視野を広げることができた。